



# 学校だより

6月号

希望【きぼう】 幸福【しあわせ】 優愛【やさしさ】  
岸谷小ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kishiya>

令和6年5月31日  
横浜市立岸谷小学校  
校長 本庄 則子

## 体験活動の意義と意味

校長 本庄 則子



あじさい  
紫陽花の美しい季節となりました。例年より早い開花となっていると思いますが、岸谷小学校でも、今、ちょうど見頃を迎えています。

5月28日から1泊2日で5年生が三浦へ宿泊体験学習にでかけました。夜間は嵐のような天候になり、海の入る活動は残念ながらできませんでしたが、三崎マグロの競りや観音崎自然博物館を見学したり、漁業体験でシラス船を見て漁師さんの話を聞いたり、釜揚げシラスの選別（異物除去）を実際にしたりと、五感を働かせる体験をしてきました。インターネットやマルチメディアの時代、大抵のことは学校や家庭で調べられます。でも、大量のシラスの中に小さいカニやエビ、タツノオトシゴが入っているのを「見て」、新鮮なシラスをちょっとずつ「味見して」、磯の香りを「嗅ぎ」、磯の生き物に実際に「触れ」、海岸で波の音を「聞く」。本物を体験するからこそ得られる感性は何にも代えがたいものだと目の前の子どもたちから感じる事ができました。

宿泊体験は、自然と触れ合う他にも、集団で活動・生活することによって社会性を体得するという意義があります。家族ではない同年齢集団で生活するのは、自分を律しなくてはならず、疲れます。しかし、その中で行動するからこそ得られる達成感や成成感は格別です。キャンドルファイヤーでの子どもたちの夢中で楽しんでいる姿も、とても印象的でした。

宿泊体験には、教員の想いもあります。何を感じてほしいのか、何を学んでほしいのか、担任達は真剣に時間をかけて考え、計画をたてます。たった2日間ですが、そのための準備を子どもたちとし、事後も様々に起こった出来事や学んだことを振り返ります。勿論、参加できなかつたり困った経験があったりしても、それを含めて自分なりに整理できるようにし、活動の意味を把握できるようにしていきます。全体を振り返り、意味を考えることを通して、活動や学習の価値が高まってきます。

宿泊行事は、この後、4年生、6年生と続きます。「宿泊から帰ってくると、一回り成長しますね。」と話して下さった方がいらっしゃいますが、その通りだと思います。ご協力いただいた保護者・地域の皆様、ありがとうございます。そしてこれからご協力いただく皆様、どうぞよろしくお願い致します。

## 3年生アイスアリーナ遠足

## 5年生 三浦宿泊体験学習



5月27日、3年生は横浜銀行アイスアリーナへ行き、アイススケートを楽しみました。二人のコーチに付いていただき、最初に転び方を学びました。子ども達は、転んでも転んでも立ち上がり、熱心に練習していました。一日を振り返って、「初めは転ぶのが怖かったけれど、だんだん滑れるようになり、氷の上を滑るのがとても気持ち良かった！」という感想が多くありました。



5年生は、三浦の海に親しみながら水産業について学びました。マグロの競りの様子を見たり、しらす干し体験をしたりしました。漁師の方からお話をいただき、生産者さんの様々な工夫のおかげで、おいしく魚を食べることができていたと分かりました。宿舎では、友達と楽しくキャンドルファイヤーをしました。ゲームやダンスで学年の仲を深めました。